

るのを覚えたのです。もしも、届ける事が出来れば、東京湾（太平洋）と青森湾（日本海）を直結した事になる、それは取りも直さず運河を開削・開通した事になると想念したのです。これを自称「日本第3運河」と名付ける事にしました。1か月近いトレイルになるだろうが、一步一步の継続はやがては成就するだろうと思った時、この長い距離から見れば、私の歩幅は蟻が地を這うようなものだというイメージが出来上がりました。一つ一つの歩点を繋ぐ事を、一匹の蟻がそれなりにこつこつと小さな穴を開けて前に進む事のイメージと重ね合わせました。この下地にあったのが「千丈の堤も蟻の一穴より」「雨垂れ石を穿つ」の故事が浮かんで来たからでした。

「人・物・金」が大河となって流れる東北の大動脈として北上するこのルートに相応しい行動は、「大香ブランド^{RouCon}老魂サブタイトル」を蟻の歩みと合せて見出しの「蟻の一穴ブレイクスルー——東北縦断“日本第3運河開通”大作戦」に設定しました。なお、「第1運河」は前記2010（平成22）年7月27日（火）宮城県閑上海岸スタートの「旧山宮街道スルーハイク」に於いて、「第2運河」は前記2012（平成24）年9月27日（木）糸魚川日本海岸壁スタートの「旧塩の道（秋葉街道）スルーハイク」に於いて設定した名称です。この時、もしも完（貫）歩^{か ん ぼ}達成の暁には、次の感情になるのではないか、そのようになると良いなあ、との思いで、“吾が身をぞ蟻に代わらせ歩き来た 蟻の一穴運河を開削”と詠いました。そして、吉田松陰の「志を立てて以て万事の源と為す」と言う言葉を力に決意しました。

2. 出発日の設定

出発の日を何時にするか、深刻に悩みました。結論は、敢えて9月4日（水）を出発日としました。その理由は次のとおりであります。この計画をあれこれ巡らしている中で、「94」の「9」は「苦」に通じ、「4」は「死」に通じる事から一般的にはとても忌み嫌いますが、その生涯を苦勞と難儀の中で、闘い、乗り越え暮らして来た亡き父母の事が思い出されました。亡父は9月生まれです。そのような亡き父母の供養の思いを込め、その息子として敢えて、苦しみ・難儀の中に身を置いて見たいとの思いが込み上げて9月4日（苦死の日）を選択しました。また、スルーハイク（ロングトレイル）の歩き旅で、敢えて「苦死」を背負う覚悟で何かに挑みたいと言う自然の蠢^{うごめ}きもありました。

一方で、並びをひっくり返すと「49」になります。「4」は四葉のクローバーの「四」と「幸せ」に繋がります。「9」は「久」に通じ、さらには「久遠・永久」に繋がります。私の生まれは「1949年」＝「昭和24」年であり、「19」は行く、「49」が入っており、「24」は「錦」にも重なり、この生まれ年の意義も9月4日には内包していると見たのです。これらの思いを纏めてスタート日を決定したので、これらの思いと覚悟をつたない短歌にして、スタートする事としました。＝「1949」^{死苦を背負って行く}

“ 9月4日を敢えて覚悟し歩き出す 亡き父母背負い苦勞噛みしめ ”

“ 忌み嫌う9月4日を選んで旅に発つ 苦難を種火試練が燃える ”

図一57は、スタート前日の東京湾葛西臨海公園砂浜での海水汲み上げの状況です。海水を汲み上げて入れたペットボトル200ccです。この時は、快晴なので次の日からの晴れを期待したものでした。

3. 「旧奥州道中」への思い入れ

同街道は平安期には「奥大道」と呼ばれていたようです。この言葉の響きにとってもロマンを感じます。なお、江戸期の「奥州道中」は江戸から白河までが幕府直轄で、それ以降は各藩が担当しました。歴史上有名無名幾多の人が歩いた「歴史古道」ですが、中でも印象に残るのは、戊辰戦争が終わり明治の草創期

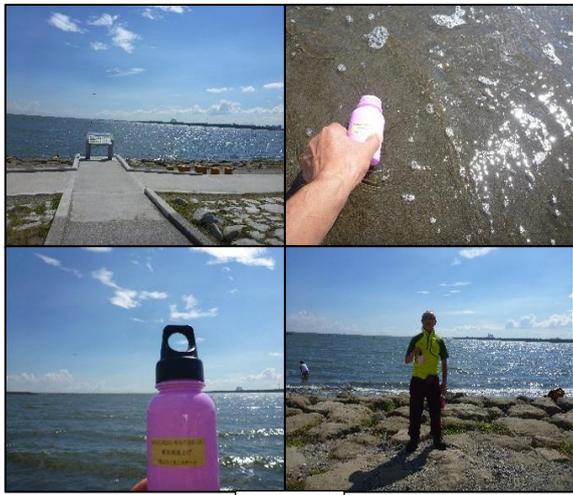


図-57

に青年大帝明治天皇が明治9年と明治14年の2回この奥州道中を通り東北に行幸された事です。明治新政府の統治の地固めを担って行われたと言う「六大巡幸」の中の二つです。その明治天皇が難儀の中で通られて、各地域で熱烈な歓迎を受けた雰囲気を感じながら歩きました。

4. 「歴史街道」沿いの状況

(1) 古道らしさ

人だけが通れるようないわゆる古道（山道）は、岩手県以北から青森県に掛けては随所にありました。それより以南は、舗装された道路か、または砂利道に林道化してしま

た。これまで歩いた「旧中山道、旧東海道、旧塩の道（秋葉古道）」などの歴史街道・古道に於いては、峠越えの山頂付近には、お地蔵様が安置されている事が多く、往時の人馬の行き来を偲ばせる雰囲気を持っていましたが、この旧奥州道中では見当りませんでした。見落としもあったかもしれませんが。ただ、一里塚については原型を留めているものもあり、あるいは跡地であるとの説明表示板の設置など保存の良さが窺われました。

(2) 藪漕ぎ

計画段階でのルート設定の参考にしたものが、図-58の本です。同街道の現地の山道ルートは、殆ど手入りがされていない状況——この本の作者が悪いと言う事ではまったくありません。——にありました。例えば、同図左には緑色で二つのルート①②が書き込まれています。この中で、より古い道と理解された左（西）側の①ルートを歩く事に設定し、現に歩いて見ました。その入り口が濃い蔦藪で塞がっていました。しかし踏み跡がある事から進んで行くうちに草木の藪がさらに濃く・深くなり、頭をすく、手足で払い除

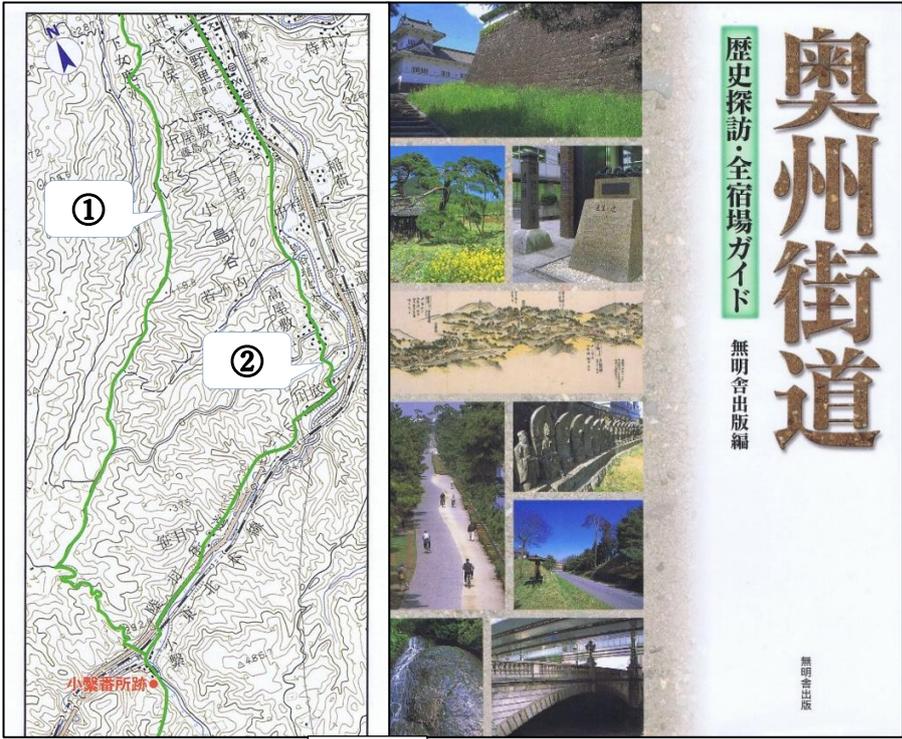


図-58

なければなりません。とげのある樹木に服を引っ掛けながら強引に進んだ所もありました。ルートファイティング（ルートを開拓）——計画ルートが余りにも藪で酷い事から、敢えて外れて（外れざるを得なくなった）、歩き道を自分で判断し開拓した所もありました。結果的には、そのような藪漕ぎを全道5個所に渡って対応しました。例えば図-59のとおりです。一時は、道の復元や下刈りに精を出した地元の人達も高齢化進んで熱が冷めてしまったのではないかと想像しています。何も藪漕ぎしなくても、車道の回り道・迂回路を探せば良いではないかと言う事になります。しかし、設定した計画のルートを踏ま



図-59

ずして、安直・安楽を求めて、「歴史街道・古道」とは言えない車道を歩く事は、私の心が許さない、納得しないのです。決意した自分を曲げる事になる、自分に自分が嘘を付く事になります。私自身の存在意義・真価が問われる事だと考えています。したがって強行突破しなければならぬのです。自分に課せられた義務だと

言い聞かせています。事前に入手したパンフレットなどには、綺麗に整備された道の状況の写真が掲載されています。誘き出すための目晦ましおび観光作戦です。要注意です。私は最初からこのような観光パンフは当てにしません。出発前の計画時点で、GPS オレゴン機に入力した電子ルートだけが頼りの全て自己責任で対応します。自己責任にリスクは付きもの、表裏一体です。リスクを伴わない自己責任はありません。したがって、自己責任の言葉それ自体が嫌いだと言う人は、行動しない事、屋内でじっとしている事が幸せに繋がるはずで。しかし、万物の霊長たる人間の細胞は、それでは自己死滅に向かうように衰退します。これは私の恣意的な私見ではありません。結果して、自己責任に拒否反応する人は、自己死滅のルールを自作している事になります。くれぐれもご注意を！

5. ハプニング

(1) 靴の交換

数日前から発症していた足裏炎症が、4日目の9月7日(土)も、宿泊先を出た時から痛みの激しさが治まらず、靴の取り換えをしたくなりました。そこで、妻に別の靴を持って来る様をお願いし、JR宇都宮駅まで靴を届けて貰いました。靴交換後、徐々に足の炎症は収まって来ました。最初の靴も過去のトレイルで使用しているものであったが、その原因は次のとおりだったと思います。取り替えた後のものより少し幅が狭い上に水分を吸収し易いものだったのです。その中で、日本橋スタートから3日間は毎日雨でした。9月初旬ですから夏の暑さも残っている中で極端に湿度の高い日々でした。そのような状態化の足はむくんで太くなります。靴の中が足からの汗と、防水スプレー処理をした登山靴と雖も朝からの雨でじわじわと水が浸透し、靴の中は濡れてしまいました。そうすると足の皮膚はふやけて皸しわが寄るのです。その皸は靴と擦れて皮膚が破れるのです。宿に着いてから乾燥させるような手だてをしますが、完全に乾燥させる事は出来ません。乾燥させたとしても翌日はまた朝から強い雨ですから。テーピングも濡れると擦れて剥がれて来ます。打つ手はなし、と言う状況でした。靴幅の少しの違いが大きく影響する事を改めて実感しました。

(2) 忘れ物回収

26日目の9月29日(日)の早朝の出来事です。関係場所は図-60のとおりです。前日は青森県浅虫温泉の旅館に投宿し、この日は、谷地山を經由して、山を下って久栗坂の集落に着いた6時25分頃、「あれ、潮水(東京湾の海水を入れたペットボトル)は？」と突然の閃きがありました。ザックを確認したら入っておらず、前日泊の浅虫温泉の宿に置き忘れて来た事が分ったのです。なぜこの時点で閃きがあったのか今だに分りません。神仏のご加護かみほとけと思っています。はてどうするか、少々慌てました。たまたま通りがかりの人に聞いたら「あそこの家は・・・早起き?・・・」と言う事を教えられました。恐る恐るその家を訪ね、「・・・なんとか〇〇旅館へ、車に乗せて行って貰えないか」と、しかじかの事情を話したら、一言返事で快諾してくれたのです。

赤坂さんと言う方で、直ぐ様に自家用車を用意してくれ、息子さんと母親の二人が乗って、私を乗せて当該旅館まで往復してくれたのです。忘れ物の「海水（潮水）入りペットボトル」は無事手元に戻す事が出来たのです。日曜日の早朝6時30分頃の時間帯で、声を掛ける事自体大変失礼とは思ったが、真に親切な対応を賜り本当にうれしくなりました。この場所（久栗坂）から旅館までは片道ちょうど4kmほどあるから、歩けば往復2時間強は掛ったと思います。6時30分頃から15分間ほどのロスで終わり本当に助かりました。その上で地元のとて美味しい青森りんご2個まで頂いてお別れしたのです。浅虫温泉の旅館にも私からの問い合わせなどでご迷惑をお掛けしたしだいで



図-60

す。なぜ、ここまでしなければならなかったのか。それは標記「大香ブランド老魂サブタイトル」の設定事情があったからで、この海水を青森湾まで届けなければ、この歩き旅の意義はまったく無くなるからです。

処で、なぜ置き忘れたかと言う事。それまでは、宿に着いても、潮水入りペットボトルはザックの最奥に入れていた事から出す必要はなかったのです。ところが、浅虫温泉の部屋に於いて、「明日はいよいよ青森湾に東京湾の海水を届ける運河開通儀礼の挙行日だ、本当に潮水は入っている事を再確認して・・・」と言う興奮した気持ちになってザックの底から取り出して見たのです。「よしOK!」と言う心の引き締めを行ったのです。その後直ぐにザックに入れば良かったのに、大事にしようとしてテーブルの下に仮置きしたのです。確かに大事にしようとの思いであれば、なぜ、すぐにザックに戻さなかったのか。興奮の余り、心に隙が生じたのだと思います。このペットボトルの確認は日本橋のスタート以来やらなかった行為で「テーブルの下」に置いた事が、つまり、やらない事が習慣化していたが、突然やった、習慣を破った事になって問題化した訳です。そんな中で翌日9月29日（日）の朝、失念してしまっただけです。見えざる神仏が、常に私の行為・心情を見張っている、監視していると言う事だと思いました。「壁に耳あり障子に目あり」で悪い事は出来ません。

(3) 習慣は性格になる

前段に引き続き、マザーテレサが云われた次の言葉が浮かびました。

「思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから～ 「言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから～

「行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから～ 「習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから～

「性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから～

これを要約すると、「思考→言葉→行動→習慣→性格→運命」の連結になります。全ての始めは思考です。

また、スイスの哲学者・詩人であるアミエルは、その日記の中に「人生は習慣の織物である」と記述しているとの事です。私は、何気ない普段の日常生活の生き方次第で人生最終章の満足の是非が決まるものだという訓えを読み解きます。古道の山奥には予想もしていなかった藪の壁が突然に立ちはだかる場面に何回か遭遇して来ましたが、その時になって、慌てふためくようでは心が練れていないのです。日々の心の蓄積如何が問題を解いてくれる鍵の是非に繋がります。

(4) 米のさらなる加重

12日目9月15日(日)仙台市宿泊先のホテルグリーンチェーンから、3連休中のお客なのでお米1kg(図-61)をプレゼントすると言われました。それ自体はうれしいが、自宅まで背負って行くには重いと直感し、「いらない」と言おうとしたが、せっかくなので貰う事にしました。この時は頭の回転が鈍く、ここから自宅へ宅急便で送る事が頭に浮かばなかったのです。翌日16日(月)は台風18号の宮城県縦断中で豪雨と時々突風の中を、1kgの米を余分に背負って黙々と進みました。この日は敬老の日の祭日で郵便局のゆうパックは使えず、コンビニ等からの一般宅配も浮かびませんでした。神仏がわざと重い荷物を背負わしたのだと思い、甘んじて背負いました。そこで、徳川家康の言葉が浮かんで来ました。



図-61

『 人の一生は重荷を負いて遠き道を行くが如し、急ぐべからず。不自由を常と思えば不足無し。心に望み起こらば困窮したる時を思い出すべし。堪忍は無事長久の基、怒りを敵と思え。勝つ事ばかり知りて、負くる事を知らざば、害その身にいたる。己を責めて人を責むるな。及ばざるは過ぎたるより勝れり。 』

この日の夜泊まった大衡村大衡のビジネスホテルでやっと宅配便で自宅に送る事が出来ました。

(5) 思いがけないご厚意

一つ目は、17日目の9月20日(金)の朝、岩手県水沢区を過ぎた所で、通り掛かりのあるお母さんより、突然後ろから飛び止められて「一所懸命歩き旅しているようだから、珍しい『もも』の一種のネプターンと言うが、2個食べてな」と言われて、頂戴しました。

二つ目は、19日目の9月22日(日)の午前中、盛岡の手前で、後ろから、あるお母さんから突然呼び止められ、「とても頑張って歩いているようですが、何か訳があってですか」と尋ねられました。『・・・(手短かに話しました)・・・』「今日はとても良い事があったと日記に書こう」とおっしゃられ、とてもおいしいりんごを1個頂戴しました。2個勧められたが、1個だけ頂戴しました。声掛けのタイミングを計るべく50mくらい追い掛けて来たとの事でした。

6. 東北縦断の「日本第3運河」開通儀式

26日目の9月29日（日）8時30

分、青森湾に面した青森市合浦公園^{がっぼ}に到着し、砂浜に向かい、快晴の中で、運河開通儀式を一人で挙行了しました。図—62のとおりです。背負って来たペットボトル海水の半分を青森湾に注ぎ入れました。ここに、東京湾と青森湾を直結した、すなわち東北を縦断する運河を開削・開通させたのです。ウィキペディア（フリー百科事典）に依ると、国際水路機関の定義により、東京湾は太平洋、青森湾は日本海に属するから、両海洋を接続した事にもなります。まさに「日本第3運河」の開通です。ペットボトルの空いた半分に今度は青森湾の海水を汲み入れて混合し、幸いにもボランティアでご

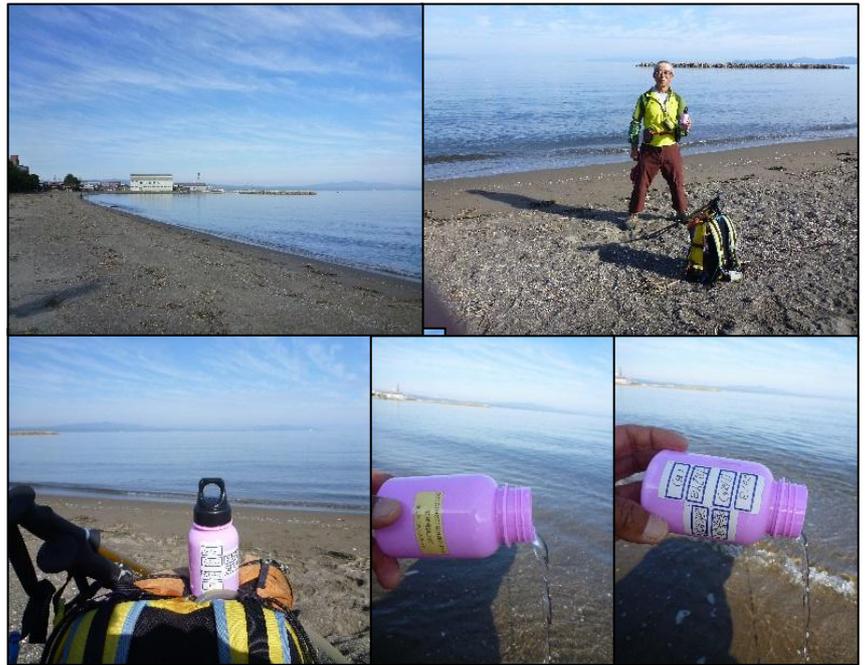


図-62

み拾いをしていた男性と一緒に祝ってくれました。とてもうれしかったです。湾に向かいて頭を垂れ、私に関係された皆に感謝し、末永いご健勝をお祈りしました。ここを中間ゴールとしました。その新しい混合水を最終ゴールの三厩まで背負い歩きました。なお、事前に確認はしていたが、やはり、青森中心街近傍の海岸は岩壁構造で海水に手を入れる事は不可能でありました。この合浦公園が儀式の場所としては正解でした。

この時の感慨をつたない短歌にしました。

“東京の湾の潮水背負い来て 青森湾に注ぎ散水”

“東北を中央突破縦断す 蝦夷^{えみし}の力で運河を開削”

“背い来た潮水揺られて塩になり 濃い^{みかみ}の盛り塩を喜ぶ御神”

“背負いたる潮水揺れて熟成す 舐めた^{な しおじる}塩汁は再活薬”

“潮水に決意と希望を溶し込み 熟成変化し乾杯の酒”

また、吉田松陰の言葉が浮かんで来ました。松陰は「志専^{もっぼ}らならずんば、業盛^{ぎょう}んなる事能^{あた}わず」と言っているそうです。——志を持って、目指す物事に集中しないと、やる事や事業が成果を収めない（逆に言えば、志と目標を持って、損得の色気を出さずに集中して行えば、必ずや力を発揮し成就に導かれる。）ここからあそこまで歩くのだと言う堅い決意と強い信念を持ちながらも、単調な歩きをスルーハイク^{Rou}に帰結させて行くには、持続性が必要となります。その原動力・推進力となるのは「大香ブランド^{Com}老魂サブタイトル」の設定である、と改めて実感しました。

7. 「旧奥州道中」基点

26日目の9月29日（日）前記合浦公園に引き続き、青森駅の近く東側にある善知鳥神社^{うとう}に立ち寄りしました。そこには図—63右の通りの「奥州街道終点 記念の碑」が設置されています。一方で、同図左（岩手県金ケ崎町に設置の説明板）には「・・・青森津軽半島の三厩までの宿場町百十四次が整備されて『奥

奥州街道三十一里半杭説明版

慶長八年（一六〇三）織田信長、豊臣秀吉の後を
 継いで征夷大將軍となった徳川家康は、江戸日本
 橋を起点とした五つの幹線道路を整備した。東海
 道、中山道、日光道中、甲州道中、奥州道中である。
 奥州道中は、日光道中を宇都宮から分岐し、白河、
 仙台、盛岡、そして青森津軽半島の三厩^{みんまや}までの宿場
 町百十四次が整備されて「奥州街道」と呼ばれるよ
 うになった。幕府から一里塚を築くことを命ぜら
 れた伊達政宗は、仙台北目町^{きためまち}を起点として仙台領
 内南端の越河御番所^{こしがわごばんじょ}まで十五対、北端の相去御
 番所^{あいきりごばんじょ}まで三十四対の一里塚を築いた。



図-63

州街道』と呼ばれるようになってきた。・・・」とあります。このような説明版は途中何箇所かにありました。つまり、青森の人は、自分達の所が発着の基点と見ているようです。二つの説があるようなので、私は青森を中間ゴール、三厩を最終ゴールとしたのです。

ところで、とてもうれしい事がありました。この日は後潟まで歩き、すべての歩行を終了し、青森市街のホテルに投宿直前の夕方、再度、善知鳥神社^{うとう}に行ってみたら、若いカップルの神前結婚式が執り行われていました。様子がすべて公開

されていました。しばらく拝見しました。とてもお目出度い日に巡り合い、結婚式に同席したような気持ちで、私の中間ゴールの節目と重ね合わせて大いに喜びました。

8. 三厩^{みんまや}ゴール

ゴールの前日、少し山道に入るがその所で見事な山葡萄に出会いました。その実を食すると共に、背負っているペットボトル海水に果汁を絞って混合しました。



- 三厩湾海水
- 山葡萄果汁
- 青森湾海水
- 東京湾海水



図-66

さらに歩を進め、ついに、スタートから28日目の10月1日（火）の14時30分、津軽半島の三厩

（「松前街道終点之碑」がある所の基点／図-64）に到着しました。引き続き、近くの海水に手が届くきれいな港の一角に移動し、背負って来たペットボトルの海水の半分を注ぎ込み、缶ビールで祝杯を挙げ、完歩ゴールの祝賀儀式を一人で挙行了しました。図-65のとおりです。最後に、そのペットボトルに、今度はこの三厩湾（大きくは青森湾）の海水を汲み入れ、仕上がった混合水を図-66上のおりの「胎蔵水」と名付けて自宅に持ち帰り、神棚に祀っています。その名付けの理由は、森羅万象に内在する陰陽二気、すなわち曼荼羅金胎両部界の事が何かにと私の脳裏にあります。この中で太平洋を陽の男は金剛界、日本海を陰の女は胎蔵界に見立てており、この場所で最後に加水したのは、日本海（前記のとおり青森湾）の海水（女）である



図-64



図-65

事から「胎蔵水」と名付けたのです。そして、同日 14 時 50 分にここを離れて、近くの旅館に投宿しました。お刺身でんこ盛りでボリュームたっぷりの料理と、きさくな女将さんとの談笑など、とても思い出深い最後の夜となりました。

9. 思いがけない事

最終日にも思いがけないとてうれしい事がありました。この日の昼 11 時頃に今別の食堂（ラーメン屋）に入ったのです。高齢の母親と娘さんが商売していました。母親は脳梗塞で手術するなど 2 年半の休業（当初は生死を彷徨ったとの事）を経て、この日は再開初日で、私が初めての客だと話されました。私のこれまでの私のトレイルの事を話し、「女将さんの末永い幸せを祈るよ」と言ったら、何か自分の事と重なる事があったのでしょうか、ぼろぼろと涙を流していました。そしてこの店を出ようとドアを開けた途端に晴れ間が見えたのです。最終ゴールのこの日は朝から小雨、時々強い雨で雨具を着用したが、急転直下、12 時ぴったりの時間に雨は突然止んで、以降晴れ間が次第に広がって、ゴール時は大きく晴れ間が広がったのです。この食堂の女将さんから頂戴した素朴で温かいエールのお蔭と、不可思議な神仏のご加護とを思い感謝しました。

10. 神棚に二つの混合海水ペットボトル

我が家には、先の「旧山宮旧街道」と「旧塩の道（秋葉古道）」スルーハイクの合体で作った「金剛水」と、今回の「旧奥州道中」スルーハイクで確保した図—66 下—のとおり「胎蔵水」の二つを神棚（その下段は仏壇）に祀っています。いわば神仏の曼荼羅金胎両部界を演出し、この二つの神聖なペアの潮水をお祀りしております。

11. 本トレイルを振り返って感慨をつたない短歌に

“延々と 800 キロの奥州路 歩点を繋ぎ三厩^{みんまや}ゴール”
“一歩ずつりレーで繋ぐ奥州路 悲喜^{ひきこもごも}交々をバトンに乗せて”
“江戸を立ち三厩^{しゆく}宿まで完歩した 足の強さに感謝と慰労”
“三厩^{みんまや}でゴールテープに鉢^{はさみ}入れ すべてが終了満天心^{ごころ}”
“奥州路衣替え日にゴールした 一皮剥けて心柱^{む しんちゆう}キラリ”
“忌み嫌う 9 月 4 日を食材に料理する 丸めた肴^{さかな}に縦串⁹⁴入れる”
“吾が道はコピーロックの修業道 難儀を食する偏屈男”
“吾が身には辛苦^{四ん九}を食べる虫（む四＝夢志）がいる 変わり者だが馬力が強い”

12. 対照的な（正反対の）天気

とても印象的だったのは、天気の対照的な変化でした。旧奥州街道スルーハイクの 27 連泊 28 日間の天気は、階段状に大きく変化しました。対称的に正反対に変化したのです。大きく分けたのが台風 18 号でした。自然の猛威が牙を剥いて西日本の一部に被害を与えました。私の歩き旅のほぼ中間地点の当りを通過する時に、宮城県を縦断するこの台風の直撃を受ける形で歩きました。試練だと思いました。

特に台風の経路を見ると、16 日（月）の中心位置が図—67—のとおりでした。12 日目 9 月 15 日（日）と 13 日目 16 日（月）の連休 2 日間は台風 18 号の直撃を受ける形で、豪雨と突風の中で歩きました。

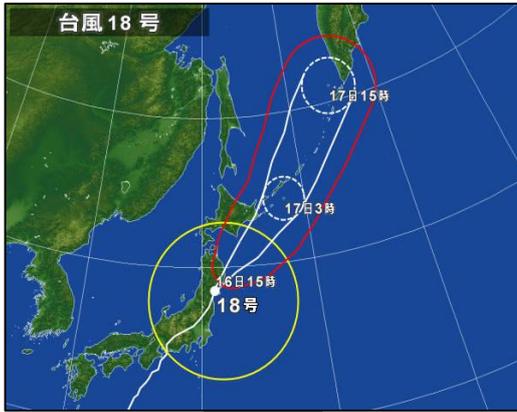


図-67

さかのぼ

遡って1週間位前から影響があったのです。本トレイル全期間中の天気の様子は後記図—68のとおりです。このような変化はとても縁起の良いのと思いき嬉しくなります。前半の雨は、スタートにあえて「94」を選んで事と合わせて、神仏が労苦を与えてくれたものと感謝し、最終盤の1日半の小雨は、神仏が清め払いの水をかぶせてくれたものと理解し感謝しながら歩きました。

この期間中の天候に係る感慨をつたない短歌にしました。

“前半は雨に崇られ後半は 日の恵みがこの身を包む”

“前半は雨に崇られ下を向く 視線ビームは地球を貫く”

“後半は晴れ間が広がり上を向く 視線の力が天を貫く”

“奥州路小雨が続くエピローグ 心柱洗われ心は清し”

“終日の浄め小雨が語り掛け 先心講座だ気合を入れろ”

“両極の豪雨と快晴に当てられた 神の仕業に平伏す吾が身”

“大人海老が真水の池須で殻を脱ぐ 雨の力で吾が身が脱皮”

13. さらに高見のステージへ

この「旧奥州道中」を以て、いわゆる「旧五街道」トレイルは完結を見ました。そこで、本スルーハイックを総括した思いは、

“大香のブランド磨きは常々に 光を求めもっと磨けや ”でした。

この踏破を以て「旧五街道」の全てを完歩したものの、心の片隅に少し中途半端と言うような気持ちが残ったのです。確かに基点から基点まで周到な準備と計画で固めた「歴史街道・歴史古道」を忠実に辿ったのは間違いないが、今一つ納得感がいかになく悶々としていました。消化不良の気分でした。「なぜなのか？ 何が欲しいのか？」その確たるものが見えませんでした。しばらく時間が経過しました。ここで私の無意識の内に内在する和魂と荒魂に登場願ひ相談したのです。そこで次の事を気付かされたのです。2012（平成24）年の7月と8月にハイックした「旧甲州道中（2分割／下り）」の事が浮かんだのです。

「一つの歴史街道をスルーハイックするとの大義、大原則を打ち立てながら、どんな理由を付けようが、それが正攻法の理由であろうと、スルーハイックと言わない、のではないか」と言う気持ちが湧き上がって来たのです。この 燻る気持ちは中々消える事は無く、何とか解決したく、その不満を解消・実現すべく機会を覗う事にしました。

「旧奥州街道スルーハイイク」 天候変化全体図

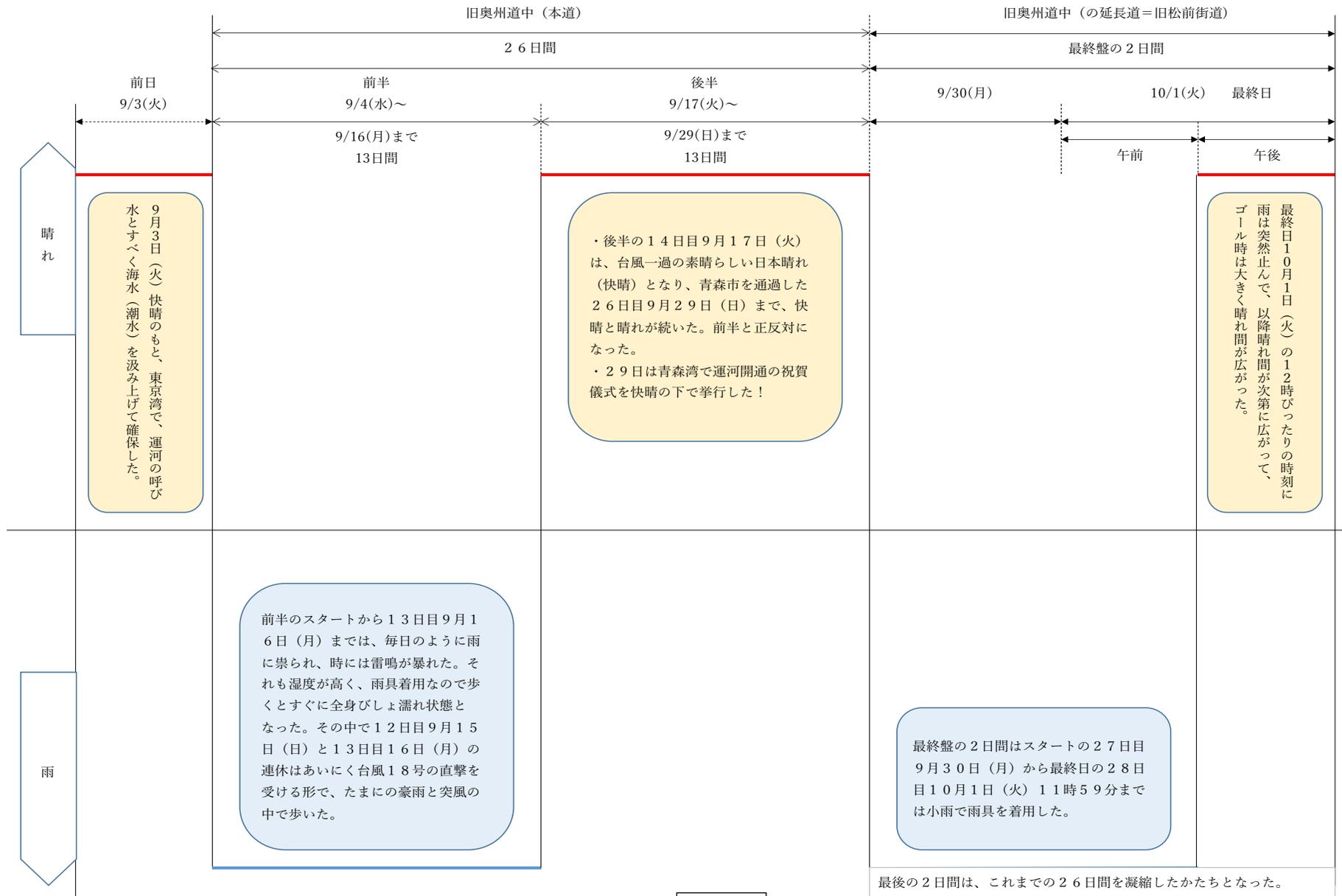


図-68

⑪ 2013 (平成25) 年「旧奥州道中」スルーハイク (27連泊28日間) の全踏破歩行記録 ----- 移動行程集計表

< 携行したガーミン社の「オレゴン機 (地図搭載、GPS軌跡&タイムスタンプ機能)」と「カシミール3D (フリーソフト)」により集計 >

「大香ブランド老魂サブタイトル」は ~ 蟻の一穴ブレイクスルー-東北縦断”日本第3運河開通”大作戦 ~

累積 日数	行動月日		街道の歩行区間 通過主要地点・旧宿場名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間				平均時速 f=a/e	天候	備考	宿泊先 (略称)				
	月	曜			歩行開始 時:分	歩行終了 時:分	歩行時間 時間:分	時間換算 時間				所在地	名称			
	日	日	a		b	c	d=c-b	e								
前日	9月3日	(火)									(前日泊)→	東京都中央区	西鉄イン日本橋			
以下【旧奥州道中の本道】												スタート				
1日目	9月4日	(水)	[日本橋(S)]→浅草→草加→越谷→春日部	39.2	5:05	16:45	11:40	11.7	3.4	雨		埼玉県春日部市	旅館ふるさと			
2日目	9月5日	(木)	(前終点)→幸手→(利根川)→古河	31.6	5:50	14:50	9:00	9.0	3.5	雨		茨城県古河市	ホテル 山水			
3日目	9月6日	(金)	(前終点)→小山→小金井	27.8	6:15	15:15	9:00	9.0	3.1	雨		栃木県下野市	松葉屋旅館			
4日目	9月7日	(土)	(前終点)→小金井→宇都宮	29.7	6:20	14:55	8:35	8.6	3.5	雨	靴交換	栃木県宇都宮市	セレクトイン宇都宮			
5日目	9月8日	(日)	(前終点)→白沢→氏家→喜連川	25.7	5:50	13:45	7:55	7.9	3.2	雨		栃木県さくら市	民宿 樽分			
6日目	9月9日	(月)	(前終点)→佐久山→大田原→鍋掛	32.8	6:00	14:35	8:35	8.6	3.8	曇り		栃木県那須塩原市	ホテル アライ			
7日目	9月10日	(火)	(前終点)→(境の明神)→白河→矢吹	50.0	5:15	17:55	12:40	12.7	3.9	雨		福島県矢吹町	ホテルニュー日活			
8日目	9月11日	(水)	(前終点)→鏡石→須賀川→郡山→日和田	31.1	6:15	15:10	8:55	8.9	3.5	曇り		福島県郡山市	旅館 道奥荘			
9日目	9月12日	(木)	(前終点)→本宮→本松→福島	45.9	6:00	17:30	11:30	11.5	4.0	雨		福島県福島市	シルクホテル			
10日目	9月13日	(金)	(前終点)→桑折→斎川→白石	39.2	6:10	15:15	9:05	9.1	4.3	雨		宮城県白石市	パシフィックホテル白石			
11日目	9月14日	(土)	(前終点)→大河原→岩沼	35.0	6:15	15:15	9:00	9.0	3.9	雨		宮城県岩沼市	旅館 松の家			
12日目	9月15日	(日)	(前終点)→名取→長町→仙台	25.0	6:45	15:15	8:30	8.5	2.9	雨	台風18号	宮城県仙台市	ホテルグリーンシティ			
13日目	9月16日	(月)	(前終点)→北仙台→泉→吉岡	27.8	6:00	14:20	8:20	8.3	3.3	雨	台風18号、青森までの中間点通過	宮城県大衡村	BH 新ばし			
14日目	9月17日	(火)	(前終点)→三本木→古川→築館	45.4	5:25	16:30	11:05	11.1	4.1	快晴	三厩までの中間点通過	宮城県築館町	BH 築館			
15日目	9月18日	(水)	(前終点)→金成→有壁→一の関	33.5	6:50	16:05	9:15	9.3	3.6	晴れ	藪漕ぎ	岩手県一関市	越後屋旅館			
16日目	9月19日	(木)	(前終点)→平泉→前沢→水沢	32.5	6:55	16:00	9:05	9.1	3.6	快晴		岩手県奥州市	翠明荘			
17日目	9月20日	(金)	(前終点)→金ヶ崎→北上→花巻	38.1	6:05	15:55	9:50	9.8	3.9	晴れ	藪漕ぎ	岩手県花巻市	御宿 玉川			
18日目	9月21日	(土)	(前終点)→石鳥谷→紫波	23.6	7:50	14:50	7:00	7.0	3.4	晴れ		岩手県紫波町	紫波グリーンホテル			
19日目	9月22日	(日)	(前終点)→盛岡→渋民→芋田 (好摩駅への分岐)	43.8	5:00	15:40	10:40	10.7	4.1	晴れ		岩手県岩手町	丹野旅館			
20日目	9月23日	(月)	(前終点)→宮宮内→御堂→火行 (小繋駅への分岐)	33.7	7:40	16:05	8:25	8.4	4.0	快晴	「奥州街道最高地点484m」の標柱	岩手県岩手町	丹野旅館			
21日目	9月24日	(火)	(前終点)→小鳥谷→一戸→(浪打峠)→二戸	27.0	7:55	15:45	7:50	7.8	3.5	快晴	藪漕ぎ2箇所	岩手県二戸市	ホテル村井			
22日目	9月25日	(水)	(前終点)→金田→温泉→三戸	24.0	6:55	14:15	7:20	7.3	3.3	晴れ		岩手県南部町	古町温泉			
23日目	9月26日	(木)	(前終点)→五戸→十和田	37.9	6:40	15:50	9:10	9.2	4.1	晴れ		青森県十和田市	スマイルホテル十和田			
24日目	9月27日	(金)	(前終点)→七戸→野辺地	38.7	5:35	14:45	9:10	9.2	4.2	快晴	藪漕ぎ	青森県野辺地町	クラブ旅館			
25日目	9月28日	(土)	(前終点)→小湊→浅虫	34.9	6:35	15:05	8:30	8.5	4.1	晴れ		青森県青森市	辰巳館			
26日目	9月29日	(日)	(前終点)→(合浦公園)→青森→油川→ 後潟 (後潟駅への分岐)	31.8	5:35	13:40	8:05	8.1	3.9	快晴	東北縦断運河開通儀式	青森県青森市	セントラルホテル青森			
以下【旧奥州道中の延																
27日目	9月30日	(月)	(前終点)→蟹田→平館	29.0	6:55	14:30	7:35	7.6	3.8	雨		青森県外ヶ浜町	ペンションだいば			
28日目	10月1日	(火)	(前終点)→今別→[三厩 (G)]	27.8	7:40	14:50	7:10	7.2	3.9	雨後晴	三厩湾でゴール儀式	ゴール				
												(最終日泊)→	青森県外ヶ浜町	龍飛旅館		
				合計	943					835	←ルート沿い計画距離					
				1日平均	33.7					9.0	3.7	29.8				
					km					時間	km/h	km				

(注1) ルート沿い計画距離に対して実歩行距離が、108km (1日当り3.9km程) 長くなった理由は、岩手県以北の古道は山道が多く、藪漕ぎなど実際は、ジクザク歩き方の影響による。

(注2) 距離と時間の集計は、旧街道・古道沿い関係のみであり、長時間 (片道15分・500m程度超過) 街道を離れた場合などの移動ロスを除いて補正している。